



歴史・概要 ~その4~

H I S T O R Y

自在かぎ（炉かぎ）【1952（昭和27）年10月】

/ 旧瀬戸邸（1階 茶室） 展示資料



「自在かぎ」は「炉かぎ」ともいい、地方によっても「かぎどこ」「吊りかぎ」「かぎづる」・・・などの名称で呼ばれています。民家の囲炉裏の上に、鍋、釜、鉄瓶などを吊るための道具として知られています。

近代に入ると、商家などでは華麗な装飾の付いたものが使われており、瀬戸家でも屋号である「八〇」が北前船の帆に装飾されたみごとな「自在かぎ」が残されています。裏面には、「昭和二十七年十月吉日」と彫られており、ちょうどこの家の上棟が行われた時期と重なります。

またこの「自在かぎ」には「旭川 赤石作」と彫られおり、常蔵が旭川の腕のいい職人にオーダーメイドで製作させたと考えられます。